

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	明るく元気！あふれる感動あったか介護 ・明るく安心、たくさんの笑顔、助け合い家族。 ・地域、ご家族様、職員の関係・連携を深め、入居者様に楽しく自由に毎日を過ごして頂けるよう努力します。 ・入居者様には認知症の進行を防止するため、できることはやっております。できることを見つけた時、そのよろs媚を職		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎日繰り返される掃除や洗濯、食器洗い等、利用者様個々のレベルに応じてできることを一緒に行うよう支援、介助している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	病院、歯科医院、美容院等、先方に予め電話連絡をしておき、受診中等に起こる可能性のあることを告げ了承の上で受診等に出かけている。極力往診や訪問美容等は使わず、地域のサービスを受けられるように対応している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	5階建てのビルの中での運営の為、現在近隣の方が気軽に入って来ることはないが行事の際に笹をもらいに行ったりして施設の認識をしてもらえるように声をかけている。クリーニング屋で施設について声をかけてもらうこともあった。		地域の婦人会やボランティア団体へ呼びかけをしてお話ボランティアや外出時の同行ボランティアの受け入れをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	グループホーム単独ではないが、施設全体でのボランティア慰問の際には参加をしている。施設側からの外出はしていない。		近隣の幼稚園によびかけ、そよ風側からの訪問を取り入れたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	プルタブを集めると車椅子になると聞き、生命保険会社へ寄付する為に集めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価について理解しているものの、職員へは口頭での説明のみしかしておらず浸透はされていない。		全体会議等で書類を用いて全職員に意識づけしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで開催している。毎月の行事内容の説明、苦情、相談があれば公表して他のご家族様にも周知して頂けるようにしている。開催日には行事を組み合わせ、ご家族様や地域の方々にも参加し易い状況を作っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の入居状況の報告書を持参し市役所担当者へ訪問をしている。その他新規入居者があり疑問がある時などすぐに相談ができる関係作りはできている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護についての研修は受講済みである。利用者家族内から相談を受けた時に後見人制度がある旨説明し、案内をしたことがある。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	居室の外窓への施錠をおこなっている。入所前に家族、職員で話し合い、了承の元(同意書を頂いている)で行っている。できるだけ施錠をしない生活の重要性について職員同士話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在外部の研修はまだ行っていない。社内で他センターで開催される意見交流会等に3か月に1度参加している。		今後は県社協主催の研修に参加できる機会を設けていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在近隣の同業者との交流はとっていない。		時間はかかるが、他施設との意見交流会を設けていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	新しい職員が入った時や季節ごとに職員同士の食事会を設け、ざっくばらんに会話ができる機会をもうけている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本人の業務レベルのアップによりサブリーダーやリーダーの業務を提案し向上心が保たれるように努力している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の依頼が入ったら、まずご自宅へ訪問し本人様と面会(面接)をさせて頂き、身体的に困難していることから精神定期的な部分まで聴きとりをしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人様の面会時に本人様とは別の部屋で再度面会をしている。その後も電話連絡や訪問をして不安なところが緩和されるよう話を聴く機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの料金形態について説明し他のサービスを求められたら施設案内等をしている。場合によってはパンフレットの取り寄せをして案内をする時もある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人様がそよ風の他のサービスを利用されている場合は利用時に職員がご挨拶をして顔見知りになれるよう訪問をしている。施設見学をされた場合はレクリエーション等に一緒に参加をして頂く等入り込みやすいような状況を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の準備の時に味付けと一緒に頂き味を確認する等ご利用者様に意見を聴くことを心がけている。喜怒哀楽に対し、寄り添った介護を心がけている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは頻りに電話連絡をとり相談、報告をしている。ご家族様より指示を頂く事もある。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ケアプランにも必ず面会の機会を設けるようにしている。入所説明の時に、職員からご家族様への電話は頻りにさせて頂く旨伝え了承を頂いている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から行きつけだった美容院がある方はそこへお連れしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う合わないを職員が把握し、散歩や席の配置に配慮をしている。助け合いのできる方と要介護者を隣の席にする等ご利用者様同士の支援が自然とできる体制を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	解約者がいない。		今後解約者が出た時はご本人様、ご家族様が笑顔でまたそよ風に遊びに来られるような環境作りをしていきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に集団で動くのではなく、少人数、個人単位での外出を誘って実践している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の訪問調査より生活歴や性格等の聴き取りを行い、入所判定会議等で職員に説明をしている。入所後もご本人様、ご家族様との会話の中から色々教えて頂くようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できるだけ動いて頂けるように個人別に声かけを行い掃除、洗濯、台所等の仕事に参加できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所前に調査した内容を職員に説明した際、課題点や注意点等の意見を上げてもらいプランに反映させている。ご家族様には、調査の際に現状の悩みや課題点を聞き取りプランに反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの時期には問題の有無に関係なく、グループホーム会議にてプランの進行状況について職員に相談しプランの再作成にいかしている。仮プラン作成後はご家族様と面談の上、職員からの意見の他、ご家族様からの意見。要望も伺いプランに組み込んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日参加した体操やレクリエーションについて記録がある。記録を見る他、日々の職員同士の申し送りや申し送りノートから情報の共有化をし計画書に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開始当初の少人数の時にはデイサービスへ一緒にレクリエーションをしに訪問したり、有料老人施設へお茶を飲みに行ったり逆に招いたりした。地域の花火大会の際には有料老人施設に誘ってもらい一緒に花火見学をしたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人様の意向ではないが、ボランティアエステ等を導入している。		今後はご利用者の意向を取り入れた内容の物を導入していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他との話し合いはしていない。		徐々に他の事業所と連携をとっていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護について必要なご家族様には説明をしているが、地域包括支援センターとの協働はしていない。		地域包括支援センターを運営推進会議に招くだけの関係でなく、こちらからの情報収集を行い連携を取っていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に今後のかかりつけ医に関しては話し合い納得して頂いた所での受診を勧めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在は精神科等の認知症専門医へかかりつけになっているご利用者様はいない。必要な時に受診する予定の専門医の選定は済んでいる。ご家族様には入所前から必要に応じて専門医受診を開始する旨を伝え了解を頂いている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医院が施設の敷地内にある為、気軽に看護師に相談をし、支持を受けたりすることもある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在入院した方がいない。入院した場合には職員からの面会を行い、2週間経過した頃に管理者がご家族様に同行して受診を受ける。そこで今後の経過について等確認をすることになっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は終末期の方はいない。入所前より、週末期の介護について説明をしその時期が来た場合は早めに相談をさせて頂く説明をしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在週末期のご利用者様がない。		グループホーム会議にて定期的に週末期のケアについて説明し職員に意識づけをしていきたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在退去した方がいないが、他施設(特養)入所の為退去予定の方がいる。ご家族様の面会時にその都度情報提供をして現在の状態の情報の共有化をしている。転居先にはこちらから介護サマリーを送付する予定となっている。本人様に転居の件を伝えるかはご家族様と検討してからとしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>声かけはグループホーム会議等で話し合ったり、日々の業務申し送りで注意を呼びかけ利用者様に失礼のないよう対応することを心がけている。記録では他利用者様はアルファベットで記載する等直接的にわからないように記載している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何かお誘いする時は必ず本人様に確認の声をかけ、意思確認をしている。その人に合わせた話し方を心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務の流れとは別で利用者様の日々の体調を考慮して生活をして頂いている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入所前からの行きつけの美容院にお連れしている。行くことが困難な方で希望される方には施設内で髪染めをしたり、時々化粧をしたりしておしゃれを楽しんで頂ける様にしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備で味噌汁作りや仕分け、それも難しい方には味見をして頂いている。後片付けも職員と一緒に頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在は全員一緒に物を召しあがって頂いている。</p>	<p>今後、お菓子類の買い出しも外食と同様個別で対応するように検討中。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を用いて排泄のペースをつかむようにしている。その他ご本人様の排泄の合図を把握してトイレに誘導するようにしている。夜間トイレ誘導を行い、できるだけハビリパンツ内での失禁を減らすよう努力している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は毎日全員の方が入って頂けるようにしている。入浴開始時間は決めているが、ご本人様がゆっくりとおっしゃれば最後の方で入って頂きすべてを職員ペースで進めないようにしている。</p>		<p>今後、時間を設定しなくても入浴できる日を設けられるよう職員間で話し合いたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>全員一緒に就寝時間は設けず、職員と一緒に会話を楽しんだり、眠気が出るまでリビングで過ごしたい希望があれば一緒に過ごすようにしている。日中は個々の体調に合わせてこちらから臥床を促す事もある。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>毎日ちょっとした環境変化を求めている方には少しでも居室の外へ出られるよう支援し気晴らしをして頂いている。編み物が得意な方やハーモニカが好きな方にはそれぞれ楽しんで頂けるようにしている。</p>		<p>できるだけ多くの方に実践できるように話しあっていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、小銭を個人で持って頂くことは可能としているが、実際それを使って物を買う行為には至っていない。</p>		<p>まずは買い物の際にご自分のお金から支払う習慣をつけて頂けるよう支援を開始したい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>集団ではなく少人数や個別で中庭へ外出する日もある。買い物も個別で行けるように支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>総合公園に利用者様全員と外出・外食をおこなった。家族への共同参加は促していない。</p>		<p>今月(10月)の外出行事にはご家族様へのお誘いをしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から依頼がある時は電話がかけられるよう予めご家族様にご連絡をしてかけている。手紙は暑中見舞い等で記入できる方には一言書いて頂くようにした。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限を設けず、できるだけご家族様とご本人様が会って触れあえるようにしている。一緒に昼食を召しあがって帰られる家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規入所の方がある時や会議等で身体拘束について話をし、情報の共有化を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの出入口が開設時より自動扉になっているので施錠されている。居室は外窓のみ転落防止の為施錠をしているが、入所前にご家族様の同意を頂いている。		グループホーム会議で開錠できるよう検討していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	基本的に夜間は2時間おきの巡視、(不穏な方は1時間おき)を行っている。日中は居室に入った方に関して1時間ごとの訪室をするようにして様子観察をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為のある方は対象物を手にされた時に周囲の職員が注意して見守る。取り上げることはしていない。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設全体での避難訓練は行っている。ご利用者様の疾患によって手引き時の付き添う方向等グループホーム会議で話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	てんかん発作がおきる方がいる為、発作が起きた時の対応方法等職員に指導している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ご利用者様が避難できる方法は身につけていない。近隣の職員の協力体制はできているが、地域の方の協力は働きかけていない。		今後運営推進会議に地域の方(同自治会の方)等参加して頂けるよう声かけをしていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプランにてリスクの記載をしている。ご家族様には利用前に説明し、ご理解をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入所前に緊急時や異変が起きた時の対応方法をご家族様に説明をしている。1階にある診療所に対応できる範囲は事前にご家族様に連絡、相談をしてから、救急車対応の状況の時は搬送先が決まった後にご家族様にご連絡する方針となっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と合わない食物等一覧表にし間違っ提供しないよう注意を呼び掛けている。個別に病院の受診記録を記録しており、新薬が処方された時は注意事項等記載するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の体操の実施、便秘気味の方の歩行介助等をしている。その他、薬の内服の前に便秘解消のお茶(センナ茶)を飲んで頂きできるだけ薬を飲まないで済むよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけで歯磨きができる方には見守り+最後の職員確認、入れ歯の方も自力で洗える部分は磨いて頂くなど自立援助を中心に毎食後口腔衛生に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分摂取量を時間単位で記録している。個人の嗜好を加味して提供するよう種類を考慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	研修を行い、消毒方法や、対処法等の説明をした。日々の消毒等マニュアルがある（掃除の方法等）		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩夜勤者が食器洗い用スポンジ・まな板・三角コーナー等水回りの使用品の塩素消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホーム玄関、エレベーターに行事予定がある時はお知らせチラシを掲示したりしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに入浴を楽しんで頂けるよう浴槽に入浴剤を入れたり、果物の皮を入れたりし季節感を感じて頂いている。題どこにも果物を置いたりして目で楽しんで頂いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルの他、ソファも用意し、気の合った人同士が会話を楽しめるようにしている。ダイニングテーブルも2台離れて設置し大人数で常時過ごさなくてもいいように工夫してある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベット等ご自宅で使い慣れた物をしょうして頂けるようできるだけ持参を促している。ベット等新しく購入する場合は、手すり等必要な部品等が出てきた場合は、ご本人様とご家族様にご相談の上新規購入をするようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングに温度湿度計を設置し目安にしている。これから冬季になる為、個室に加湿器を設置してもらうようご家族様に相談をしていく。リビングにも設置予定あり。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーな造りになっている。居室を選択して頂く際に、本人様の身体機能(使用可能な手の方向等)を加味して選んで頂けるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の力がいかせるよう色々な場面で声かけ支援をしてやる気をだせるよう工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階にある為、ベランダを活用して花や食物を植え水やりをご利用者様に担当してもらっている。実が生ったらみんなで食べて楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームという施設に大事なご家族を預けているということを職員が理解し、いつでもご家族様とつながっていただけるよう、職員から相談の電話を多く入れることがあります。ご家族様が不安や心配事が増えないように面会来所時には近況報告を全員の職員ができるような体制をとっています。運営推進会議には構えず様々な方にご参加頂けるよう、大きな行事(例：流しそうめん大会やお好み焼きパーティ等)を組み合わせて実施しています。ご利用者様同士は職員だけの介助から他のご利用者様を巻き込み、お互い助け合える間柄を作っています。その他できるだけ個別での外出を取り入れ、ご利用者様の不満の聴き取りや解消につとめています。